



自然科学書協会 会報

NSPA JAPAN

THE NATURAL SCIENCE PUBLISHERS' ASSOCIATION OF JAPAN



2021 年 11 月 10 日 No.4 (通算 97 号)

発行人：飯塚 尚彦 / 編集：広報委員会

目 次

1. 新副理事長の就任のご挨拶 (村上 和夫：オーム社)・(池田 和博：丸善出版)	2
2. 新役員紹介	4
新理事：森田 浩平 (緑書房)・片岡 一成 (恒星社厚生閣)	
新監事：小立 健太 (南江堂)・牧瀬 充典 (文化産業信用組合)	
3. 新委員長のご挨拶と抱負	6
・販売・出展委員会 (吉野 和浩：裳華房)	
・広報委員会 (牛来 真也：コロナ社)	
・著作・出版権委員会 (梅澤 俊彦：日本医事新報社)	
・研修委員会 (片岡 一成：恒星社厚生閣)	
・総務委員会 (白石 泰夫：医歯薬出版)	
4. 自然科学書フェア 2021 秋 視察報告 (販売・出展委員会 山内 裕：第一出版)	9
5. 三省堂書店本社ビル建替えに関する説明を受けて (理事長 飯塚 尚彦：産業図書)	11
6. 第 71 期第 1 回研修会を終えて (理事長 飯塚 尚彦：産業図書)	12
7. 第 71 期／72 期役員一覧・役務分担 (事務局)	13
8. 第 71 期／72 期委員会委員一覧 (事務局)	13
9. 事務局だより (事務局)	13
10. 編集後記 (広報委員会 山田 貴史：化学同人)	14



一般社団法人 自然科学書協会

<https://www.nspa.or.jp/>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-101 神保町 101 ビル 3 階 TEL：03-5577-6301



1. 新副理事長の就任のご挨拶

○ 村上 和夫 (オーム社)

2021 年 7 月 15 日 (木) の臨時理事会におきまして飯塚新理事長より副理事長就任を要請され、受託いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。私は当協会の理事を務めさせていただいてからようやく 5 期目に入ったばかりでございます。まだまだ経験不足、力不足を感じており、正直のところ副理事長職は大変重く感じておりますが、理事の皆様のお力を借りながら職責を全うすべく努力したく思います。当協会の定款によりますと「副理事長は理事長を補佐し会務を処理する」となっております。理事長を補佐し、協会内全般を見ながら全体の活発な活動ができますよう取り組んで参る所存です。当協会の目的は「会員の信頼と協力によって、自然科学に関する出版事業の文化的使命の達成を図ると共に自然科学及びその応用の進歩向上に寄与すること」とされています。まずは、全会員社の信頼と協力が礎です。その上に立った協会活動という視点を大切にしていきたいと思っております。また協会加盟社のみならず良質な自然科学書の出版活動がより活発となり、社会貢献していけますことを願っております。



さて、ここで私の自然科学書協会への関わりについて紹介させていただきます。

一委員としては、「出版 VAN 委員会」(過去に設置されていた)、「販売・出展委員会」に参加しておりました。

「出版 VAN 委員会」への参加は 30 年ほど前で、飯塚理事長ともご一緒させていただき、特に会議終了後には今後の書誌情報や販売データなどについても意見を交換させていただきました。現在では、書誌データベース「JPRO」の活用や、受発注データの送受信は当たり前となり、IT 技術の進歩と出版界の変化もあり当時とは大きく変わってきています。

「販売・出展委員会」では東京国際ブックフェア (TIBF) 出展に関わる小委員会の中の「レイアウト委員会」に所属し、主に TIBF のブース設計・装飾を担当させていただきました。現在は TIBF も開催されなくなり寂しい限りですが、いずれ形を変えて再開されることを願っております。

また、理事としての直前 2 期は、「販売・出展委員会」の委員長を前任の吉野理事より引継ぎ、役立たずの委員長でしたが、鈴木理事が副委員長を担当していただき、また各委員の活躍もあり大変助けられました。TIBF が開催されなくなった後でしたので委員会の構造も変更し、「ブックフェア小委員会」と「国際小委員会」の 2 委員会というスリム化した体制となりました。晴れて今期より吉野理事に委員長をお戻しし、心より安堵しております。

出版界は、多くの課題を抱えておりますが、常に明るく、心穏やかに、前向きに臨む姿勢を心掛け、諸課題に対応して参りたいと存じます。

会員各社様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

○ 池田 和博（丸善出版）

この度、当協会の副理事長を拝命いたしました。これまでの 4 年間は総務委員長を務めてきましたが、新任期からは経理責任者として理事長をサポートしつつ運営に携わっていきたいと思います。

私は 2013 年に自然科学書協会の理事に就任しました。丸善出版が丸善株式会社から分社したのが 2011 年、私が社長に就任したのが 2012 年、元々編集畑で仕事をしていた私は自然科学書協会の委員会委員の経験もなく、まったく接点がなかったところからの理事就任となりました。理事会に出席しても初めのうちはチンプンカンプンで、ただ出席しているだけの状態でした。当時は筑紫委員長（現・建帛社会長）の下で販売・出展委員会の副委員長を拝命し、協会のことも委員会のことも多くを教えていただきました。とりわけ、東京国際ブックフェアや自然科学書フェアなどでの委員の方々の活発な活動を通して学ばせていただきました。委員の皆さんが動かれるのを見て知り、呑みニュケーションの中で聞いて知るといのが実態でしたが……。次の任期では販売・出展委員長を拝命し、4 年に渡って委員の皆さんのおかげで楽しく充実した販売・出展委員会時代を過ごすことができました。

その後に総務委員長を拝命することになり、当協会の運営に携わるようになりました。これまた事務局の高山さんにおんぶにだっこ状態で総務の仕事を 1 から教わってきました。1 年を経て一通りの年間活動を経験してようやく全体概要をつかんだような次第でした。そして、理事や委員を支える立場で事務局が機能しているからこそ円滑な協会活動が行われている、と 4 年間総務に携わったいま痛感しています。この場をお借りして事務局の高山さんに敬意を表すとともに御礼を申し上げたいと思います。どうぞ今後とも引き続きよろしくお願いします。

さて、私はこのように自然科学書協会に関わってきましたが、副理事長の役がきちんと務まるかいささか不安ではあります。とはいえ立ち止まってはいただけませんので、理事長をはじめ皆さまのお力を借りながら足を引っ張らないように進んでいこうと思います。

新型コロナウイルス感染症の社会活動への影響が今後どうなるか分かりませんが、少なくともこの 2 年間は当協会の活動も縮小を余儀なくされました。ウイズコロナと言われている中で、これまでとは違った形での協会活動を考え実現していかなければならないかと思っています。微力ではありますが、皆さまのお役に立てるよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



2. 新役員紹介

○ 森田 浩平（緑書房）：新理事

このたびの役員改選で理事に就任し、役務としては、総務委員会副委員長を拝命いたしました。まだまだ若輩者ですが、お引き受けしたからには、協会の円滑な運営に貢献できるよう、力を尽くす所存です。

さて、皆さまもご承知のように、この2年ほど、COVID-19の影響により、当協会の活動も大きな制約を余儀なくされております。一方で、物流の問題、著作権法改正に伴う対応、デジタル市場への取り組み等々、出版業界を取り巻く課題は山積しています。

こうした環境下、会員社の皆さまと常に最新の情報を共有し、課題解決に向けて協力していくことが不可欠であると、痛感している次第です。

私自身、諸課題に対し、何が最善か、一会員社としての視点からも考えていかなければならないと、決意を新たにしています。

時代の変化が加速し、情報メディアも多様化しておりますが、私たちを取り巻く環境がどんなに変わろうと、自然科学書の出版社が果たしていくべき社会的使命は不変であると、私は信じています。

あらゆる知識の伝達・向上、技術の発展・普及のために、ひいては社会の課題を解決し、明るい未来を切りひらいていくために、自然科学書は必要不可欠なものと考えます。その自然科学書を生み出す出版社が結集した当協会の活動に誇りを持ち、取り組んで参りたいと思います。

会員社の皆さまには、これまでに増して、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



○ 片岡 一成（恒星社厚生閣）：新理事

このたび理事を拝命いたしました。皆様の負託にお応えすべく努めたく存じます。私は常々、出版の面白さの源泉のひとつは、業界人の個性・教養にあると感じております。ひとたびお話を伺えば、その深い造詣や独創性に感嘆させられることがままございます。その個性を育んだ糧が、良質な本との出会いであろうことは想像に難しくなく、それを踏まえれば、その個性の集まりが、現在の出版物の多様性を実現する原動力であると、日々心強く、自身の励みにも感じております。

昨今、寛容社会の実現という言葉が、暗証の禅師の如く空疎に唱えられますが、その実現に必須な多様な価値観保全のため、出版物の多様性の維持は出版人の社会的使命のひとつと信じております。不寛容社会から脱却するため、思いやりというエモーショナルな部分に期待し啓蒙することも重要ですが、俯瞰的に科学的アプローチができる豊かな教養や想像力を育むことにこそ頼むべきであり、私たちの刊行物が、やがて蒙昧で暴力的な脅威を退け、闊達で自由な議論の促進へとつなげる階となればと考えております。

SNS 隆盛の昨今、いまさらながら「弱い紐帯の重要性」が再注目されて久しいですが、当協会



の永年の結びつきこそ、その具現化であろうかと存じます。会員各社様と体験を分かち合い、愉しみの伝播が生まれるような継続発展のため、微力ながら精進して参ります。何卒、宜しくお力添えのほどお願い申し上げます。

○ **小立 健太（南江堂）**：新監事

株式会社南江堂の小立健太です。よろしくお願いいたします。

私は 2005 年大学卒業後、南江堂ではなく某大手証券会社に入社しました。証券会社のイメージですと株の取り引きを連想されるかもしれませんが、投資信託や保険商品等も扱う「お客様の金融資産を大切に育てるコンサルタント」というところに魅力を感じ志望しました。

しかし現実はそのような理想とは裏腹に、厳しい営業ノルマに追われ、資産を大切に育てるところか会社のエゴにそって金融商品を売りさばく、という日々を過ごしてきました。

理想と現実のギャップに悩みながらではありましたが、給料をもらって働くことの厳しさ、お客様との接し方、飲み会の振舞い方、経済的な知識など学んだことは多々あり、社会人としての基礎はこの 4 年間で築けたように思います。

そして 2009 年 4 月に南江堂に入社しました。入社してからは編集部、洋書部、営業部と経験し取締役営業部長を経て、2020 年 11 月に代表取締役社長に就任いたしました。

そのため社長としての経験はおろか、業界の経験もまだまだ浅く、自然科学書協会の具体的な活動内容もまだ把握できていないというのが正直なところです。

これからはたくさんの方の事を皆さまから学びながら、少しでもお役に立てますよう日々精進して参る所存であります。どうか引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



○ **牧瀬 充典（文化産業信用組合）**：新監事

この度、監事に就任しました文化産業信用組合の牧瀬と申します。当協会に初めて関与させていただくにもかかわらず、このような大役を仰せつかり、身の引き締まる思いです。

さて、監事に就任したからには、その職務・責任を全うしなければなりません。そこで、頭の整理のために、早速、当協会の「定款および諸規程」集を一読してみました。監事の職務については、定款第 19 条の第 1 項及び第 2 項に「監事の職務」についての規定があり、それに依れば、その職務は、①理事の職務の執行を監査、②監査報告を作成、③理事が作成した計算書類、事業報告等の監査が主なものであると認識することができます。

ところで、私の職歴について、少々紙面を割かせていただきますと、信託銀行に入社し、現在は信用組合に勤務、一貫して金融機関に携わってきましたが、その業務内容は、銀行業務、信託業務、証券業務、及び保険業務と多岐に亘っています。また、2014 年から 6 年間、建設会社（上場会社）の社外監査役を務めさせていただきました。

かかる経験を活かし、監事の職務を通じて、当協会の発展に貢献できればと思っております。一方、当協会の各委員会の活動状況、とりわけ著作・出版権委員会の活動状況には、私自身の知見を広げるためにも注目して参りたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



3. 新委員長のご挨拶と抱負

○ 販売・出展委員会（委員長 吉野 和浩：裳華房）

このたび販売・出展委員長を拝命いたしました。何分にも浅学非才のため、行き届かない点が多々あるかと思いますが、鈴木副委員長ならびに 15 名の委員のお力をお借りして責務を果たして参りたいと思います。

当委員会の事業内容は「国内外での展示・販売フェアを実施する」と掲げており、国内書店店頭における「自然科学書フェア」の開催、そして「国際ブックフェア（フランクフルト・北京）」への参加を柱として活動して参ります。

「自然科学書フェア」の開催につきましては、今までの経験を活かし、さらなる自然科学書の普及および当協会の認知度がより一層上がりますよう取り組んで参ります。

また、「国際ブックフェア」への参加につきましては、日本の自然科学書を世界へ広く伝える場として、そして版權取引へも貢献できるように取り組んで参ります。

会員各社様および関係各位におかれましては、引き続きご理解・ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



○ 広報委員会（委員長 牛来 真也：コロナ社）

この度、広報委員長を仰せつかりました。これまで広報委員会の正副委員長を何度か経験しましたが、新たな気持ちで筑紫副委員長のお力添えを賜り、個性的で有識な 8 名の委員の方々とともに 2 年間運営して参りたいと思います。

さて、当委員会では協会の活動内容や存在意義を今まで以上に会員各社はもちろんのこと、業界全体にも広く告知をして行く使命があります。そういう観点から以下の 3 点が当委員会の主な活動内容となります。

- 会報の発行（1 月、4 月、7 月、10 月の年 4 回）
- ホームページの情報更新
- 業界関係メディアへの協会活動の PR

会報につきましては、曾根前広報委員長の強いリーダーシップのもと、前期より紙媒体から電子媒体に変わり、大幅なコストダウンや作業時間の短縮など大きなメリットを生み出しました。電子版会報は今期も継続して参りますが、一方で読みやすさや内容についてはまだまだ改善の余地があると思います。この点は委員会で検討し、会員各社にご満足いただける会報になるよう努力して参ります。

また協会のホームページの情報更新につきましても、迅速かつ有益な情報を見やすい形で発信して参ります。



まだまだ当協会に関する業界内の認知度は低いので、対外的な PR 活動はインターネットや業界紙等を通じて、積極的に行っていく所存です。

引き続き、皆様方のご理解とご協力ならびにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

○ **著作・出版権委員会**（委員長 梅澤 俊彦：日本医事新報社）

ここ数年、政府の規制改革推進会議により提言され推進されております DX（デジタルトランスフォーメーション）の一環としまして著作物のデジタル化に関する著作権法の改正が続いており、著作・出版権委員会はその対応が主な業務となっております。昨年、授業教材の公衆送信に関わる改正著作権法第 35 条が施行されましたのは皆様ご存知かと思いますが、今年 5 月には図書館での著作物複製に関わる著作権法第 31 条の改正案が国会を通り、2023 年 5 月から施行される事が決定されました。現在行われております図書館所蔵の著作物のコピー郵送サービスを著作権者や電子出版権者に対して補償金を支払う事によりスキニングで電子化した複製物を E メール等で利用者に送信できるような内容です。



授業目的公衆送信に関わる補償金は今年の 4 月より SARTRAS 授業目的公衆送信補償金等管理協会での徴収が開始されており、各権利者への分配方法の構築作業も大詰めを迎え、年内にも具体的な説明が行われる見込みです。また補償金で利用できる範囲を超えた利用を行うための JCOPY ライセンスも開始に際し、文化庁との調整が最終段階に入っております。

図書館公衆送信に関しては、補償金受取団体や運用方針を決める協議会の設立準備が日本書籍出版協会を中心に文化庁と相談の上、開始されております。

○ **研修委員会**（委員長 片岡 一成：恒星社厚生閣）

このたび研修委員長を拝命いたしました。非力ですが、尽力する所存です。

長引くコロナ禍の影響で、皆で集い語らう喜び、熱気ある時空間から遠のいて久しいですが、オンラインミーティング等を活用して、研修会・自然科学書協会講演会の継続開催の可能性を検討たく存じます。



私が迂闊にも出版業界に足を踏み入れた 90 年代半ばには、現在のデジタル隆盛や SNS 社会の到来を予見する言説はまだどこか胡乱に響きましたが、四半世紀を経て、情報社会の在り方は当時の予想を超える変貌を遂げました。しかし一方、玉石混淆の情報氾濫への懸念から、知識情報の信頼性の価値が再認識され、精確さを担保するメディアとして、我々出版人に情報発信を希求する潜在的な欲求の高まりを日々感じます。講演会開催に際しては、先達が遺してくださった当会の社会的信頼を活かせればと考えております。

また、私自身、己の乏しい知見のアナクロニズムとその呪縛を憶える機会が増えるにつけ、良質な書籍が顕す未知の世界に触れる歓びは、従前よりも貴重で新鮮な体験となりつつあります。

私同様、知見のアップデートを望みながらもままならず、新たな知の扉に行き当たる偶然を心待ちにしている読者の姿を想い描きつつ、グラマラスな変化の兆しを生みだせるきっかけとなる研修会運営に努めたく存じます。何卒、関係各位のお力添えを賜りたく、ご指導のほどお願い申し上げます。

○ **総務委員会**（委員長 白石 泰夫：医歯薬出版）

総務委員長を仰せつかりました医歯薬出版の白石と申します。私のような新参者にかような大役を務めることが出来るのかはなはだ不安ではありましたが、飯塚理事長から、新たな目線で協会運営に取り組むことも必要とのご助言をいただき、任をお受けした次第です。

前総務委員長の池田副理事長のご指導や、やはりこのたび就任された森田副委員長（緑書房）、浅尾委員（農山漁村文化協会）、そして事務局の高山さんのご協力を仰ぎながら、なんとか責務を果たしていきたいと考えております。



総務として取り組むべき一番大きな課題は、もちろん現在の COVID-19 の影響下において、いかにして関係各位すべての命と健康を守りつつ、支障なく協会活動を運営していくかにつきると認識しています。国内では感染者数低減の傾向にありますが、今後の見通しを踏まえ、定例の理事会・報告会・総会、その他イベントについて、開催の是非、方法、時間、場所等、つど総合的な見地から慎重に検討する必要があります。

一方で、デジタル化・オンライン化が進んだことによって失われがちなアナログ的つながりの維持もやはり大切と考えます。会員社間の有機的なシナジーを高められるような工夫を検討して参ります。そして中期的な課題として 80 周年記念事業へ向けて、協会運営に微力ながら尽力する所存です。ご指導ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

4. 自然科学書フェア 2021 秋 視察報告

今期のフェアは「自然科学書フェア 2021 秋」と銘打って、2021 年 9 月 17 日（金）～11 月 7 日（日）まで千葉県習志野市の丸善津田沼店にて開催中です（※原稿作成時点）。53 の会員社より 974 点 2,380 冊が集結し、盛大なフェアとなっております。

会期半ばの 10 月 14 日（木）に、飯塚理事長、村上副理事長、吉野販売・出展委員長、鈴木販売・出展副委員長に同行して、店舗を訪問・視察して参りました。

会場はグリーンを基調としたフェアのパネルやポスターが目を引いて、統一感のある空間が創出されていました。棚はしっかりとメンテナンスされており、装飾や配置にも工夫が施され、書店様が力を入れてくださっている様子が分かりました。

店長の岩崎師博様と専門書売場長の内堀晃様にご挨拶し、飯塚理事長から、コロナ禍のもとでフェアを開催していただいた御礼を申し上げ、岩崎店長からは感謝の言葉を頂戴しました。数日前に大きな地震があり被害が心配されましたが、面陳の書籍や文具の一部が落下した程度で大きな被害はなかったそうです。しかしながら、地震と台風の影響も重なって普段より客足が伸びず、売上に影響がでているとお話でした。

それでも、このところのコロナウイルス感染者数の減少に伴って、近隣の大学生の来店も徐々に回復しているとのことで、後半の巻き返しに期待しつつ、会期終了まで引きつづきのご協力を依頼しました。

出来れば、席を設けて更なる意見交換・情報交換など交流を深めたいところでありましたが、現下ではそうともゆかず津田沼をあとにいたしました。

今回のフェアは、従来と異なり展示エリアが店舗内の複数個所に分散しての展開となりました。そのため搬入の際、各社にジャンル分け用の短冊を挟んでいただいたり、棚詰め作業前に仕分けを行うなど、これまでにない工夫や作業が必要でしたが、出品各社様ならびにフェア委員の皆様のご協力、ご尽力により無事に開催することができました。この場を借りて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

（販売・出展委員会 フェア小委員長 山内 裕）



左から、鈴木副委員長、吉野委員長、飯塚理事長、岩崎店長、内堀様、村上副理事長、山内委員、石川委員



自然科学書フェア 2021 秋 開催風景 1



自然科学書フェア 2021 秋 開催風景 2

5. 三省堂書店本社ビル建替えに関する説明を受けて

2021 年 9 月 28 日 (火)、三省堂書店本社ビル建替えについて、三省堂書店 副田陸児 執行役員からその概要説明を受けましたのでご報告いたします。

本件については、既に会員各位にも直接ご案内があったものと思いますが、まだ白紙の部分が多く、現時点で確定しているのは、神保町本店が 2022 年 5 月 8 日 (日) まで営業することだけのようです。ただし、計画では新本社ビル竣工が 2025～2026 年とのことですから、竣工までに 3～4 年を要する大きなプロジェクトであることがうかがえます。

工事期間中、神保町本店が休業することは誠に残念ですが、新本社ビル竣工の暁には、ふたたび自然科学書販売の有力書店となることを願いつつ面会を終えました。

さて、同執行役員ご来所時期は、まだ COVID-19 感染拡大防止に起因する緊急事態宣言下だったため、短時間の面会を心掛けましたが、その限られた時間でも、自然科学書協会が持つ潜在的な付加価値についての指摘が印象に残っております。

それは、「自然科学」や「サイエンス」という言葉は耳にやさしく、一般読者にも親しみが持てるキーワードだということ。つまり、物理、化学、医学・・・といったように、分野を絞りこむと専門性が高くなるぶん読者も限定されるが「自然科学」「サイエンス」といったキーワードでくくれば幅広い読者層にアピールでき、幅広い読者層にアピールできれば専門書販売の伸び代が期待できるとのこと。この点は、当協会がこれまで自然科学書フェアやサイエンスカフェを開催してきた意図(＝自然科学関連図書等の国内外への広報及び普及)と合致しており心強い限りです。

最後になりましたが、この原稿が会報となって、会員各位に届くころには三省堂書店から詳細なる計画等が発表になっているかもしれません。その節はご容赦ください。

(理事長 飯塚 尚彦)



左：飯塚 尚彦 理事長、右：三省堂書店 副田 陸児 執行役員

6. 第 71 期第 1 回研修会を終えて

理事長の飯塚です。第 1 回研修会は、片岡一成研修委員長就任前に企画をスタートしたため、当初からの事情を知る飯塚からご報告いたします。

第 1 回研修会は 2021 年 10 月 11 日（月）、15 時からリモートで開催し、テーマは日本出版インフラセンター（以下「インフラセンター」と略）との共催で、「ためし読みサービス」を取り上げました。

インフラセンターは既に皆様ご存知の通り、書協のデータベース事業（Books）から業務を引継いでスタートしました。そのインフラセンターの新たな機能が「ためし読みサービス」です。その機能は新刊・近刊情報の販売会社（取次）、書店、読者への情報発信であり、更には書誌情報のアーカイブとして今後さらに重要度を増すものと思います。今回の研修ではインフラセンターが持つ機能全般と、その機能の中から特に「ためし読みサービス」にフォーカスしました。

説明会は、実際のデータ登録画面等を見ながら、ダミーデータを使って実際の登録操作手順を確認するなど実践的な内容で、オンライン研修会の利便性を存分に発揮できたものと思います。尚、研修会への参加を逃した方、再度ご覧になりたい方は、

<https://vimeo.com/630740806/26dcf7a10e>

へアクセスしてください。当日収録した動画が視聴できます。

紙幅の都合もございますので、研修会のご報告は以上とし、以降は今回のコンセプトについてお話します。ポイントは、

1. 濃厚接触を避けるためリモート開催とすること
2. 当協会事務局の負担を可能なかぎり軽減すること
3. 後日視聴を可能ならしめること

の 3 点でした。結果、第 1 回研修会では全てクリアすることができました。

初のリモート研修会を成功裏に終えることができた背景には、当方の意図を汲んだうえで、バックアップしてくださった日本出版インフラセンターの米津様はじめ、同センターの存在があります。紙上をお借りして御礼申し上げます。

（理事長 飯塚 尚彦）

7. 第 71 期／72 期役員一覧・役務分担

○ 第 71 期／72 期役員一覧

<http://www.nspa.or.jp/yakuin71-72.html>

○ 第 71 期／72 期役務分担

<https://www.nspa.or.jp/ekimu71-72.html>

8. 第 71 期／72 期委員会委員一覧

○ 第 71 期／72 期委員会委員一覧

<https://www.nspa.or.jp/committee71-72.html>

9. 事務局だより

●理事会

<第 71 期>

- ・ 7 月 15 日 (木) ／出版クラブホール・会議室
- ・ 8 月 17 日 (火) ／オンライン方式 (Zoom)
- ・ 9 月 16 日 (木) ／オンライン方式 (Zoom)
- ・ 10 月 21 日 (木) ／オンライン方式 (Zoom)

●正副理事長会議

- ・ 7 月 28 日 (水) ／オンライン方式 (Zoom)

●委員会

<第 71 期>

- ・ 10 月 13 日 (水) 広報委員会／集合型 (コロナ社会議室)・オンライン方式 (Zoom)
- ・ 10 月 20 日 (水) 研修委員会／出版クラブホール・会議室



■COVID-19 感染状況により、以下の当協会主催の行事が中止となりました。

「[年末会員懇親会](#)」(例年 12 月開催)

「[新年会員懇親会](#)」(例年 1 月開催、会員報告会は書面にて対応)

■COVID-19 感染状況により、以下の出版関連団体主催の行事が中止となりました。

「出版平和堂第 53 回出版功労者顕彰会」

(例年 10 月開催。一般財団法人日本出版クラブ出版平和堂委員会)

「出版・印刷人の集い」

(例年 11 月開催。東京都印刷工業組合出版メディア協議会主催・当協会協賛)

10. 編集後記

第 71 期最初の会報をお読みいただきありがとうございました。

2021 年 10 月 13 日（水）に 1 回目の広報委員会が開催され、牛来委員長、筑紫副委員長のものと、新しい委員も加わり、第 71 期広報委員会がスタートしました。

第 70 期は緊急事態宣言が発令されたこともあり、委員会はオンラインでの開催がほとんどでしたが、今回は対面とオンラインのハイブリッドでの開催となりました。

私は当日東京へ向かったのですが、京都駅、東京駅どちらにも修学旅行の団体がいました。これまでは修学旅行が中止になるというニュースもありましたが、やっと思行けるようになって良かったねと思いました。新型コロナウイルスが収束したわけでもなく、また波が来るのではとも言われていますが、感染対策をとりながら上手につきあって、行事やイベントができる機会が増えていけばいいなと思います。

今期の会報では会員社訪問・社長インタビューと新たに特集記事を掲載していく予定です。

次回 2022 年 No.1 号もご覧いただければ幸いです。

（広報委員会 山田 貴史）

● 第 71 期／72 期広報委員会 ●

委員長：牛来真也（コロナ社）

副委員長：筑紫和男（建帛社）

委員：浜田 亮（オーム社）

山田貴史（化学同人）

門間順子（共立出版）

加藤義之（建帛社）

高田由紀子（恒星社厚生閣）

新井明良（コロナ社）

逸見健介（南江堂）

飯岡千恵子（丸善出版）

